

## 平成 28 年度第 3 回 南区まちづくり懇話会 議事録

1 日 時 平成 28 年 11 月 8 日（火） 午後 5 時から 7 時

2 場 所 南区役所 3 階ホール

### 3 (1) 出席委員

佐藤委員、清本委員、兼田委員、辻田委員、金子委員、上田委員、吉村委員、井村委員、岡委員（副会長）、宮本委員、田中委員（会長）、金井委員、島田委員、

### (2) 出席職員

南区長、区民部長、保健福祉部長、総務企画課長、まちづくり推進課長、保健子ども課長、飽田総合出張所長、天明総合出張所長、幸田総合出張所長、南部出張所長、城南総合出張所長、飽田まちづくり交流室長、天明まちづくり交流室長、幸田まちづくり交流室長、南部まちづくり交流室長、城南まちづくり交流室長、富合まちづくり交流室長

### 4 配布資料

- (1) 一会議次第
- (2) 一委員名簿
- (3) 一資料 1 「平成 29 年度南区まちづくり推進事業経費一覧（案）」
- (4) 一資料 2 「まちづくり支援機能強化と出張所等再編方針【概要版】」

### 5 次第

- (1) 開会
- (2) 議事  
平成 29 年度南区まちづくり推進経費事業(案)について
- (3) 意見交換  
平成 29 年度南区のまちづくり推進体制とその取組みについて
- (4) その他
- (5) 閉会

## 6 議事録

会 長 この2年間、第2期南区まちづくり懇話会の振り返る時期にきている。そういったことを念頭に本日の意見交換をお願いしたい。

事務局 ( 説 明 )

会 長 今から5年前、この第1期懇話会ができる前になるが、前区長のもと、まず“南区を知ろう”ということからはじめて、ビジョンを作り上げた。基本目標の1から3は南区の得意なところ。4から6は南区の課題ということで、テーマを掲げ、行動指針も合わせて、盛り込んだ。そのころから岡副会長とずっと一緒にやらせてもらっている。

また、第1期のちょうどこの頃、まちづくり推進経費事業の話が同じようにあがり、そのときにこの南区の懇話会は予算を審議する場所ではない、という確認をした。必要な予算を積上げるのは行政、ただその予算を区民がどのように使ってほしいという意見が入っていなければならず、その意見を言うのがこの懇話会であるという確認もしたところ。

そういった中で、まちづくり推進事業は協働でやっていくものでもあり、分かりやすく示していただかなければならないというのはあって、今説明のあった事業推進の大きな柱である、“情報受発信の充実”“まちづくりの担い手・人材育成の充実”“テーマ毎のまちづくりの推進”“地域特性を活かしたまちづくりの推進”をもとにまちづくり推進事業の組み立をお願いしたのが第1期懇話会からの提案だった。

この4本の柱に沿って、本年度も事業を策定してもらっているところであり、何か確認をしたい事業があれば、ご意見をいただきたい。

吉村委員 説明のあった本年度事業が6つの基本目標のどれに添った事業が見えない。来年度、その点をもう少し明確にして、進捗管理をしたほうがよいのではないか。

会 長 もう少し基本に戻って、事業をすすめるべきというアドバイスだったと思う。

兼田委員 資料にホームスタート事業というものがあるが、それについて説明をお願いしたい。

保健子ども課長 平成 29 年度新規事業としているが、平成 28 年度震災の影響により中止した事業。旧城南町と任意団体が協定を結び、無償でホームスタートジャパンという NPO 団体が推奨する子育て困難家庭の支援事業（ホームスタート事業）を展開されていた。支援員が手薄になり、事業実施が困難になってきたその事業を新たに南区からモデル事業として発進していきたいと考えており、まずはこれまで進めてきた城南地域と富合地域からはじめ、区内へ広げていければと考えているもの。  
約 7 パーセントの子育て困難家庭があり、南区では 1300 人ほどの出生数があるので、90 家庭ぐらいが対象になる。そのまましておくとうつや子育て放棄に繋がるので、そうならないように支援するための事業。

会 長 ホームスタート事業の事業名の意味を教えてください。

保健子ども課長 事業をはじめた NPO 法人の名称からもあるが、家（HOME）に行って、寄り添って子育て支援を始める、はじめて子育てを始めるお母さん達に伝える（START）という意味だと思う。

兼田委員 分かりにくい。

上田委員 子育て支援事業ではだめか。

保健子ども課長 事業名については、今後検討する。

会 長 すごく良い大切な事業だと思う。ただアドバイスだが、例えば“家が基本”だから、とかはつきり事業説明が出来るようにしておくことは大事だと思う。デリケートな言葉だと思うので。

吉村委員 家庭訪問型子育て事業とか少し、事業名を考えていけばよいのではないか。

会 長 人材育成からテーマに移っているのはなぜか？

- 保健子ども課長 よりテーマ性の強い事業であるため、テーマであげている。
- 兼田委員 あと、「まちづくりセンター」という言葉が出てきているが、これについても説明をお願いしたい。
- 会 長 意見交換のまちづくり体制の中で、これについては議論と思っていたが、先に事務局から説明をお願いしたい。
- 事務局 ( 説 明 )
- 会 長 今の説明を聞くと、やはり、この改編は懇話会との関わりが強い。いくつか質問だが、まず、ひとつは南区にある6つの地域に何人くらいの地域担当職員が配置されるのか。もう一つは、この懇話会の中にも地域担当職員が入ってくるような形にできるのか。
- 区 長 基本2校区に1名の配置となっていて、地域によって2~3名の地域担当職員が配置される予定。ただし、年度当初から全員の配置ができるかどうかはわからないのが現状。
- 田中会長 ちなみに年代というか、どれくらいの立場の職員か？
- 総務企画課長 主査（係長）もしくは主幹クラスが予定されている。
- 会 長 次の第3期は私と副会長は、任期満了で入れないと思うが、次の懇話会では、地域に寄り添った地域担当職員の人たちにもっと近い位置に座っていただきたい。その辺はどうでしょうか。
- 区 長 もちろん入ってもらおうと思う。日常的に、地域に寄り添う職員であるので、地域意見の代弁ができるような立場で入ってもらいたいと思う。
- 会 長 そういう頼もしい存在にはいってもらうことは大事。そういった議論を今からしていかなければならないと思う。  
今の地域担当職員と予算のことを含め、他に何かないか。
- 兼田委員 今は「まちづくり推進課」があつて、「まちづくり交流室」がある。

今度できるのは「まちづくりセンター」。やっと推進課、交流室に慣れてきたところで、「まちづくりセンター」ができると、その役割が分かりづらい。

総務企画課長　　まず「まちづくり交流室」が「まちづくりセンター」に変わるので、まず、「まちづくり交流室」はなくなる。そして、区の組織も、「まちづくり推進課」はなくなって「総務企画課」と合併し、新「総務企画課」となる。

兼田委員　　来年度からか。

総務企画課長　　来年度から一斉に変わる。

会　　長　　私はやりやすくなると思うが、「まちづくりセンター」の地域担当職員はもっと決定できる権限が持てるということか。予算付けもされるということだろうから。これまでは、どちらかという「まちづくり交流室」は地域の方が来ても、「まちづくり推進課」等への連絡係的なイメージが強いので。

総務企画課長　　今の段階で、予算措置があっているわけではない。そういう意味で、来年度の新規事業として、地域と地域担当職員が協働で出来る事業に充てる事ができる予算をまちづくり推進経費にあげているところ。

会　　長　　とはいえ、地域にとっては、これまで以上に地域担当職員は直接動けるようにはなるのではないのか。

総務企画課長　　もちろん窓口として、調整機能を持つことになるので。大きな権限を持つわけではないが、地域との調整役にはなる。地域のまちづくりの取組み支援し、課題があれば調整役を担うことになる。

会　　長　　かなり地域担当職員は大変になると思う。

副 会 長　　これまでの「まちづくり交流室」は公民館機能も担っていて、なかなか公民館業務が多忙で、まちづくり業務に手を出せなかったの

が現状と聞いているが、今後は分離されるのか。

区 長 業務は分離される。公民館は公民館の職員。まちづくりは地域担当職員。

副 会 長 なぜ聞いたかというと、資料の中の人材育成について、“公民館主催講座などを通じて人材育成”となっている。これを見ると、やはり地域からみれば、これまでと何も変わらないと見られるのではないか。  
やはり、区のまちづくり育成という観点で、人材育成を進めていくべきではないか。

区 長 現状のモデル地区として先行している北部・花園まちづくり交流室では、明確に役割を分離して進めている。

会 長 公民館の職員は社会教育主事だと思し、また、地域担当職員はまちづくり担当の別の職員が入れると思う。いろいろな会合とかにも、地域担当職員が出てくることになると思うが、まじめな職員ほどきつくなるのでは。

区 長 マニュアルをつくって対応をしていくことになると思う。また、まちづくりセンター長もまちづくり担当職員なので、センター長も含め頑張っていってもらわないといけない。

会 長 やはり、地域担当職員はかなりきつくなるような気がする。

副 会 長 夜出て行くことも多くなるだろうし。

上田委員 これまでまちづくり交流室長は公民館長をかねていたが、今後はどうなるのか。

総務企画課長 まちづくりセンター長が公民館長を兼ねる。

副 会 長 そこは、分けないときつくなるのではないかと思う。

吉村委員 できれば、地域担当職員には校区自治協議会の会合に顔を出して

もらうようしてもらいたい。校区で一番の取りまとめ団体だろうと思うので。

総務企画課長 案内がなくとも出席するようしないといけないと思う。

金井委員 各地域に、センター協力員のような人たちをだしてもらったらどうか。そういうシステムを作れば地域との繋がりもできるし、地域は取り込める。

総務企画課長 参考にさせていただきたい。

会 長 本当に必要と思う。今のままでは、地域担当職員はつぶれてしまうのではないかと思う。  
ただ、やってみないとわからないし、懸念の部分ばかりを話しても仕方ないので、何か期待するご意見があれば。

清本委員 地域担当職員には地域とのパイプ役というか、相談に行ったときの担当部署へのつなぎ役を期待している。

総務企画課長 地域に頼られる地域担当職員になってもらえればと思う。

兼田委員 例えば、幸田は4校区あるが、具体的には何人くらい配置されるか。

総務企画課長 2校区に1人が基本なので、幸田は2名程度かと思う。

副 会 長 今、「まちづくり推進課」に相談していることや補助金の申請などは「まちづくりセンター」で対応できるのか。

総務企画課長 私たちも、そう認識している。

副 会 長 一昨年つくった情報板等の活用はどうか。

総務企画課長 今後も「まちづくりセンター」で活用してもらおうと考えている。

副 会 長 「まちづくりセンター」に地域の人たちと話ができるスペースな

どは設けられないか。

また、公民館との情報発信版がまちづくりのものと混在しているので、その点ももっと明確に分けてほしい。すぐは無理と思うので、今後の課題として捉えてもらえればいいが。

兼田委員 地域コミュニティセンターはどここの所管となるのか。

総務企画課長 これまでどおり、区役所（総務企画課）になる。

兼田委員 そういった点もまちづくりセンターで対応してもらうようになればいいと思う。

総務企画課長 今後の課題ということでお受けする。

会 長 我々も良くなるようにと書いていろいろ言わせてもらっているが、懇話会としても「まちづくりセンター」に貢献したいと思うので、今のうちにできることは、今のうちに議論をしておきたい。来年度に持ち越すのではなく。  
来年は来年のメンバーですっきりやってほしい。  
他にこれだけというものは何かないか。

副 会 長 こういった組織とかそういったものが大きく変わると、いろんな齟齬がでてくる。  
南区はそういったことがないようにすっきりと書いてほしい。これ（組織の関係等）を図式化してもらえるととても説明もしやすいと思う。先ほど校区自治協議会へ出向く話があったが、そういったものがあれば、説明もしやすい。来年度までは準備していただければいいかと思う。  
あと、言葉の意味も整理して、初めて聞かれる方も分かりやすいように言葉を付け加えるなど。

上田委員 センター職員配置についてだが、説明資料からすると城南は2～3名程度かなということは想像できたが、分かりやすく、“基本2校区に1名”ということを示したほうが良いのではと思う。

総務企画課長 副会長が言われるように、本当は図式化して説明ができればよい



と思うが。まだ手探りの部分も多く、なかなか示せない部分も多い。

会 長 今後も副会長が言われたように、齟齬がないよう進めていければと思う。最初に申し上げたが、残りの懇話会もあと2回程度かと思う。これだけたくさんのお意見をもらえる懇話会であり、大事な会議にしたいし、誇らしい会議。  
残り少ないが、次回までに、次に残す意見を皆さん考えてきていただければと思う。行政の皆さんもご協力をお願いしたい。